

発行：東京都新宿区西早稲田2-3-18-61

開発教育協議会事務局 Tel 03-207-8085

総会，5月12日に国立青少年センターで

ことしの総会は5月12日（土）に東京代々木の国立青少年センターで午後1時半から開催することとなった。来月には会員各位に総会資料と出席要請の文書が送付されるが、例年通りの事業報告と事業計画案の検討，決算と予算案の審議，役員選出のほかに，今後の活動方針や運営体制，財政などについて自由に討議するフォーラムを設けて，会員の意見の集約をはかる予定である。フォーラムでの発言または発題希望者は事務局まで連絡を。

ことしは国際識字年です

別項で国際連合が提唱するいくつかの国際的な共同行動事項をあげたが，そこにあげたことのほかに，ことしはユネスコが主導する国際識字年であり，国際識字の十年行動計画の始まりの年とされていることは，すでに広く知られている通りである。

その国際識字年にあたって，国連開発計画（UNDP），ユネスコ，ユニセフ，世界銀行の四者が共同で，3月5日～9日までタイのジョムチャンで，すべての人間のための教育に関する世界会議を開くことになっている。これには政府代表だけでなく，130のNGO（うち3分の2は発展途上国から）にも招待状がだされ，また各国代表団にもNGOの代表を含むように要請されている。

1948年に国連総会で採択された世界人権宣言には，すべての人間が教育を受ける権利を有すると明記したにもかかわらず，それから40年以上を経た今日においてもなお，1億人以上の子どもが初等教育をうける機会がないままに放置されており，9億6千万人以上の成人（人類の5人に1人）が文字の読み書きができないままであり，その3分の2は女性で，また同じく3分の2近

くがアジア・太平洋地域にいる，というのが現実である。そしてさらに，1億人以上の子どもと数え切れないほどの多くの成人が，基礎教育を受ける機会に恵まれながらも，それを終了しなかったり，終了しても基本的な知識や技能を身につけられないまま，非識字者の仲間入りをしている。

そしてこれは単に発展途上国だけの問題ではなく，たとえばイギリスの人口の10%，フランスの人口の20%が，やはり非識字者であるということからも，これが全人類の大きな問題であることは容易に理解できるだろう。

タイの世界会議では非識字者を早急になくすための宣言がだされ，そのための行動計画が採択される予定である。行動計画では幼児教育事業の拡大，初等教育の完全普及，たとえば14歳人口の80%が一定の学習水準に達しているようにするという学習成果の改善，非識字率を21世紀までに今の半分にし，特に女性の非識字率を下げる，青年と成人に対する基礎教育と訓練の機会提供の拡大，生活向上のための知識や技能の習得，などといったことを目標に，各国や地域，世界全体でどういふように行動をすすめていくのかということについての枠組みが示される。

たとえばこれは、隣の中国だけとってみても、1年に数百万人から1千万人の新しい識字者を生みだしてもなお、非識字者をなくすことからは程遠いという、大変な努力を必要とする事業である。

世界銀行のサブサハラ・レポート

世界銀行が「サブサハラ・アフリカ ー 危機から維持可能な成長へ」というレポートを刊行した。

報告書は人間中心の開発戦略を求め、アフリカの問題に対処できるアフリカの能力を育て、アフリカ人が戦略の形成とその施行に責任をもつべきだと主張している。そして‘正しい管理’が決定的に重要であり、その必要を認識しなければいけないとしている。指導者はもっと国民に責任をもち、行政はもっと透明に行われ、資金はもっと正当に管理されていなければいけない、とレポートは指摘している。

レポートは環境を保護し爆発的人口増を抑ええることを指摘する。アフリカの人口は1900年には1億だったのがいまでは5億近く、2010年には10億になろうとしている。そして、上からのではなく、下からの開発を求め、計画を押しつけるのではなく、事業計画を策定する学習過程を大切にし、自営業などの非公的部門の開発の重要性を説く。

レポートは過去における世界銀行の開発戦略の失敗についての責任を認めたくて、アフリカは年に4-5%の経済成長によって、飢餓をさけ、増大する人口にたいして職と所得増をもたらさなければならぬ、とする。その成長は公平かつ維持可能なものでなければならず、農業生産を増大することを基盤にすべきであり、そのためには21世紀まで年に4%のODAの増加をはかり、1990年価格で220億USドルの援助が必要であると

ている。

あなたはどんなイメージを
もっていますか

いわゆる北側の国の人々が南側の諸国やそこに住んでいる人々について、いわれない偏見や間違ったイメージを持ちがちだということは、よく言われることだが、それを自覚させるためのゲームがOXFAMの刊行物に紹介されている。

ゲームの狙いはどんなイメージをアフリカにもっているか（アジアとかインドにおきかえても同じ）を自覚させることで、用意する材料は、3、4人を一組とするグループに対して、大きな模造紙1枚と数本のフェルトペン、そして壁に貼りだすためのピン。

まず、グループごとに共同でアフリカのイメージを模造紙に描いてもらう。アフリカと聞いた時に思い浮かべることがらを、ことばでもよし、絵でもよし、地名でも地図でもよい、時間をかけないで、みんなで描きだすこと。

次に各グループごとに模造紙に描きあげたことについての説明をする。それから全体で、どこからそういうイメージが生まれたのかを考えてみる。どこまでこのイメージを本当だと思っているのか、どんなイメージが抜けていると思うか、アフリカの人みんな同じ人種なのか、みんな貧しいのか、など、討論することはたくさんある。

これをためしに教室やグループで試みた方はその結果を情報センターにご連絡ください。

実態はどうなのでしょう

協力隊を育てる会では、高校生が第三世界の理解を深める資料として、五千四百の

高校に青年海外協力隊の機関誌クロスロードを一年間贈呈し、開発・国際理解教育についてのアンケートを行った。回答率は38%で関心の低さもうかがわせる。

開発・国際理解教育を実施していると回答したのは37%の高校で、63%の実施していないとした高校が大きく上回っている。実施していない理由は時間が取れない、必要性を感じないなど、学校側の体制についてが過半数で、指導できるものがない、方法がわからないなどという理由もあげられている。

実施している高校の48%は授業で、37%はクラブ活動で取り上げている（複数回答）が、その内容についての質問をみると海外事情をあげるものが多く、また取り上げた国についてもアメリカ、オーストラリアをあげるところが多く、開発教育について理解したうえで回答しているのかどうか、疑わしい回答もかなりあるようである。また実施上の問題点として、生徒の関心がうすい、教員が理解していない、時間がない、情報資料が不足している、などがあげられた。

協力隊事業については思ったよりも多くの学校で理解されており、また帰国隊員の開発教育活動についても興味を持たれている、としている。（協力隊を育てる会ニュース第66号から）

ごぞんじですか
たくさんの国際的な活動事項

● ことしのアースデイ…地球の日(4月22日)を地球環境問題キャンペーンの日にしようという動きが各地から伝えられている。アースデイは20年前の1970年にアメリカで始められたもので、当時公害といていた環境問題に人々の関心を向けるのに役立った。ことしは百ヵ国以上が参加する世界的

な環境問題市民運動の日になるという。

● 国際連合の広報部が国連の活動事項というパンフレットを作ったが、それによると国際連合が主導的役割を果たす十年共同活動項目が次のようにあげられている。

国際飲料水供給と公衆衛生の十年
(1981-1990)

国連障害者の十年 (1983-1992)

高齢化に対する国際行動計画十周年
(1983-1992)

国際青年の年十周年 (1985-1994)

文化開発世界の十年 (1988-1997)

それに国際識字年関係が加わるのは別項の通り。

セミナーにご参加ください
関西セミナーハウス

関西セミナーハウスでは、来年度も開発教育推進セミナーを、4月28日の週末を第1回としてほぼ毎月末の週末に、6回にわたって連続で開催することとし、目下参加者を募集している。またこのセミナーの一環として、アジアスタディツアーも企画しているが、これは8月上旬の2週間を予定している。関心のある方は京都市左京区一乗寺竹の内町23の関西セミナーハウス（電話075-711-2115）までお問い合わせを。

調査参加者を募集しています

日本国際交流センターのアジア・コミュニティ・トラストでは今年の5月以降に、フィリピンの子どもの労働や教育、生活全般についての調査を、フィリピンのNGOと協力して行うよう計画中ですが、そのために、英文資料の検討、翻訳、現地調査、開発教育の資料づくりのできる人を募集中です。関心のあるかたは東京都港区麻布4-9-17 日本国際交流センターACTの雨森または鈴木

までお問い合わせください
(電話 03-446-7781)。

協議会事務局から

★ 第43回理事会

1月10日の午後開かれた。来年度の活動方針作成のための小委員会からの報告を受け事務局体制再編成、新規企画、財政などについて協議した。これにもとづいて事務局が来年度事業計画案を成文化し次回理事会に提出することとした。また総会は5月12日(土)、全国研究集会は8月25、26の両日に開催することを決定した。

★ 第26回事務局運営会議

1月26日の夜開かれ、各小委員会からの報告を受けたあと、協議会の来年度以降の運営体制について協議した。

★ 第27回事務局運営会議

2月21日夜、事務局の来年度活動方針原案

と事務局運営会議のありかたについて協議した。

★ 開発教育ハンドブック'90年版

長い間懸案だった開発教育のハンドブックがようやくできあがる。開発教育の成立過程の解明から、就学前、小学校、中学校、高等学校、社会教育それぞれにおける開発教育の実践についての指針、そしてゲームなどの例示や参考図書、視聴覚教材の一覧まで含む総合的なもの。どうぞご利用ください。

★ 事務局の仲間—ボランティア 募集中

新年度から事務局ボランティアとして、一緒に開発教育を押し進める事務局の仕事を分担してくださる方を募集しています。時に会合に出席するほか、各種の仕事を個人の関心と余裕に応じて分担してもらいます。関心のある方は03-207-8085 まで電話をください。

新入・継続会員(敬称略、1989年12月19日～1990年2月20日、手続きの日付順)

<新入会員>

山口寛子(埼玉) 樋口信也(東京) 立岡 浩(埼玉) 嶺井明子(東京) 菅又雅章(東京) 山下雄司(佐賀) 磯崎泰博(兵庫) 生地 陽(神奈川) 藤原孝章(兵庫) 馬籠久美子(USA) 榊谷公子(東京) 楠原博次(大阪) 元日田勉(宮崎) 上岡直子(USA) 巢瀬奈緒美(東京) 松田有石(大阪) 坂本昌士(京都) 坂井俊樹(東京) 森 良(東京) 蔵田雅彦(大阪) 内田 幸(東京) 田中良美(岡山) 山崎卓也(京都) 植松茂男(大阪) 榊原智子(東京) 龍頭喜久雄(愛知) 小林 栄(東京) 金沢はるえ(東京) 四車ユキコ(広島) 水田隆憲(広島) 菊永訓江(東京) 藤澤健一(茨城) 豊田YMCA(愛知) 在田昌弘(福岡)

<継続会員>

山崎正気(神奈川) 岩田尚美(茨城) 安井久寿(東京) 大木真一(岩手) 千葉大健(宮城) 小林ゆり(東京) 鈴木寛一(東京) 樋口真貴子(東京) 真部誠一郎(岡山) 福田 菊(京都) 岩崎裕保(大阪) 岡野内正(東京) 森 正恵(京都) 木内圭一(埼玉) 長崎YMCA(長崎) 平田 哲(京都) 尾関京子(京都) 幸田雅夫(東京) 初岡昌一郎(東京) 森田 茂(埼玉) 田中 力(東京) 北海道YMCA(北海道) 原 真一(愛知) 桧垣友幸(島根) 渋谷 恵(東京) 熱海恵美子(宮城) 吉田 正(大阪) 川口有紀(福岡) 木原三彦(埼玉) 佐々木美恵子(神奈川) 帝塚山学院泉ヶ丘高校(大阪) 棚橋和正(東京)